

## ● 技術士 2 次試験体験記 『文系の技術士試験体験』

### 筆記試験 1 回目・・・ 一般問題 B 専門問題 B

#### 【一般問題と専門問題共通の敗因 - 圧倒的な知識不足】

2 次試験を受けるまで国土交通省白書も読んでことがなく、国土交通省や国の政策の流れから勉強しました。政策や法律の名称を覚えるのに精一杯で、【なぜその政策や法律が必要なのか】までは気が回りませんでした。政策、法律が必要な背景まで理解していないと、論理的な論文展開ができないと思います。

#### 【一般問題と専門問題共通の敗因 - 文章の稚拙さ】

もともと文書を書くのが苦手で、大学の入試も論文がないところを選んだほどの文書キライでした。そのため、今読み返してもナンダコリヤ？と思うような、主語・述語等が変な文章になっていました。急場しのぎで見出しばかりの箇条書きを多用した文章にしましたが、やはり課題・問題点・解決策の繋がりや深い考察ができておらず、敗因の一つになったと思います。

### 筆記試験 2 回目・・・ 一般問題 C 専門問題 A

#### 【一般問題の敗因 - 技術的なトレンドを理解していなかった】

この年の一般問題は、アセットマネジメントに関する問題と、建設分野における技術力の維持及び向上に関する問題でした。この頃の建設業界や政策の懸念事項に関する流れは、少子高齢化・国や自治体の財源不足・インフラの維持更新需要の増加に対する方策でした。技術士試験はとても良問が多く、トレンドに沿った問題が出ることが多いです。しかし私は、そのことを理解できておらず、白書の各々の政策を横並びで勉強しており、そのためアセットマネジメントの意味もほとんど分かっていないという状態でした。そのため、C 判定となってしまったのです。

#### 【専門問題の勝因 - 専門事項の暗記】

専門問題は、ここ数年建設副産物に関する問題が必ず一題は出ておりましたので、その頃指導してもらっていた技術士の方の助言もあり、建設副産物に関しては何を聞いても答えられるよう、白書から建設リサイクル法・はては建設リサイクル法の推進施策検討小委員会や中央環境審議会検討会の答申まで読み、理解し、書いてある重要事項を覚えました。その結果、判定が A となりました。このことから、建設環境の問題は特に専門知識の暗記が重要であることを理解しました。

## 筆記試験 3 回目・・・ 一般問題 A 専門問題 B

### 【一般問題の勝因 - 骨子法練習】

一般問題は、地球温暖化に関する問題でした。ほとんどの受験生がこちらの問題を選択したと考えられますが、その中でも A を取れたのは、APEC さんの骨子法練習をたくさんやっていたからだと思います。一般問題は論理的な考察力が特に重要視されますので、全体の文章の流れを掴める骨子法練習は大変役に立ったと思います。骨子法練習をすることで、不要な文章がなくなり、必要かつ十分な文章を書く力がついたと思います。B 判定だった人の文章を読むと、現状 課題 問題点 解決策の流れが不十分であったり、温暖化とは関係のない解決策を書いていたりました。

### 【専門問題の敗因 - 建設業界のトレンド理解不測】

この年は、それまで出題されていた建設副産物に関する問題が出なくなりました。今思えば当然のことで、建設副産物は建設リサイクル法が施行されてから年々廃棄物が減少しており、リサイクルが進んでいたのです。リサイクルに関する方策も出尽くしており、技術士試験の問題にするにはトレンドから外れていたと思います。実際、この年から現在までも建設副産物に関する問題は出題されていません。

## 筆記試験 4 回目・・・ 一般問題 A 専門問題 A

### 【一般問題・専門問題の勝因 - 他人から抜きん出る】

合格のボーダーライン付近には、点数が似かよった論文が並びます。出来がほとんど同じ論文から合格論文を選ぶとき、採点者は何か光るもの、他人が持っていないものがある論文を選ぶと思います。私が持っている、光るものとは何か、を考えたとき、それはイラストだと考えました。私はもともと役所への提案書を書くときにパソコンでイラストを描いたり写真を加工するのが得意としており、多用していました。APEC さんのセミナーでも、イラストがある論文は分かりやすく、まだイラストを用いた論文はそんなにない、と聞いていたので、イラストを多用することに決めました。勉強しているときは、白書や専門書にあるイラストを手書きで書けるよう、練習しました。あまり細かく描く必要はないと思います。言いたいことが最低限伝わるよう、エッセンスだけを本番の試験で描けるようにしました。結局、すべての試験論文でイラストを使用しました。

### 【一般問題の勝因 - 骨子法による練習と分かりやすさ】

一般問題では、おそらく 9 割の受験生は防災の方を書いていると思い、他人に差をつけるため、敢えて海外での建設産業に関する課題と方策の問題にしました。他人に差をつけたい一方で、論理的な文章が必要になりますが、ここでも骨子法によるトレーニングが生きていたと思います。骨子法のトレーニングによる論理的な文章と、イラストによる分かりやすい説明、これが勝因になったと思います。

### 【専門問題の勝因 - とにかく専門知識】

建設環境に限った話かもしれませんが、建設環境に関する問題は、例えば自然再生の話だと10年後に必ずこうなります、とはハッキリ言えません。ですので、おのずから専門知識の確認に重点が置かれてしまうようになると思います。私を書いた専門論文は、3枚のうち専門知識に関する回答が2枚で埋まっていました。問題点の解決方法については、完全に正しいと言えるものはありませんので、現在の法律や、法律に基づいた基本計画、制度を中心に書くことになるかと思います。そのうえで、順応的対応が大事であることが言えれば良いと思います。

特に二次試験筆記、口頭試験で言えることですが、【技術士とはなにか？どんな能力が求められているのか？】【技術士を定義している技術士法にはなにが書いてあるのか？】を掴むことが大変重要です。試験ですから、合格するにはなにがしかの基準があります。それが書いてあるのが技術士法・技術士試験の合格基準だと思います。遠回りなようでも、技術士法や技術士試験の合格基準を良く読み、理解することが筆記でも口頭試験でも重要だと思います。